



第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 島田 浩一 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
真鍋 幸一 愛媛県 国立大洲青少年交流の家 所長

分科会の進め方

10:45~10:50

1 歩く人を歓迎するまちづくり
～熊本県美里町から発信するフットパス～

10:50~11:20

濱田 孝正(熊本県美里町) 美里フットパス協会 事務局長

フットパスとは、古い町並み・田園地帯・森林など、地域に昔からある風景を楽しみながら歩くことができる小道(Path)のこと。イギリスが発祥とされる。(※)2011年からフットパスの活動に取り組む。合同会社フットパス研究所を立ち上げ、地域を歩き、道を探し、地域が一番美しく見えるルートを選定し、コースにする。自立した運営を信条として運営のための補助金は受けていない。常勤者は3名。美里町を起点にして熊本県内で約30の地域で取り組みが始まっている。副次効果として町内の飲食店や温泉、商店への立ち寄りが増えている。今後は確かな情報発信や相談窓口としての機能を強化したい。(※)出典：知恵蔵mini

2 少子化時代でも運動会開催を可能にする学校と地域の連携

11:25~11:55

村岡 健(鳥取県三朝町) 小鹿地域協議会 体育部事務局

少子化が進む現代において、人口の少ない地区では運動会の開催が困難な状況にある。本事例は、鳥取県三朝町において、従来から学校(三朝町立東小学校)と地域(小鹿地域協議会・三徳地域協議会)が連携して共同開催している運動会についての報告である。全校児童の少ない学校や世帯数の少ない地域でも、学校と地域の連携によって効果的な運動会の参加が可能である。

3 地域をつなぐ「BGLンジャー」(青少年育成支援事業)

12:00~12:30

黒葛原 緑(福岡県筑紫野市) 筑紫野市教育委員会生涯学習課 生涯学習推進青少年担当

地域の様々な課題のひとつである「自分たちのふるさとを創っていく青少年をどう育てていくのか」「青少年に必要な体験は」などの解決に向け、地域の人が集まり考え、公民館を拠点に展開される、体験活動を中心とした、継続的な取組への支援策である。青少年の課題解決を図る事業を公募、社会教育委員の会にて審査・決定を行い、年間3団体を選出、3年間の事業補助を行っている。事業をとおして、子どもの主体性・自主性を育み、「地域の教育力」の向上を目的に、地域と行政の密接な関係基盤づくりをめざしている。

※「BGLンジャー」とは、ボーイズ・アンド・ガールズチャレンジャーの略称。